

## 令和4年度 事業報告

令和4年9月5日に文部科学省より、55年ぶりの新たな高等教育制度である専門職大学の認可を受けました。それに伴い、本報告では学園事業を専門職大学事業・専門学校事業・附帯事業の3事業に分類して報告いたします。

### 1. 専門職大学事業

#### (グローバルビジネス学部 グローバルビジネス学科)

前年度に専門職大学の申請を行い、補正申請などを経て今年度6月には同省担当者・委員が2度本学に来校し、実地審査が行われました。6月に専門職大学再補正申請を提出し、8月31日に専門職大学設置認可が交付されました。

開学に向け、ウェブサイト・パンフレット・募集要項作成、Web出願システムの導入など、開学への準備を確実に進めて参りました。また広報部門の拡充を図るため、入試企画室長を新たに迎え、学校訪問の強化・教育媒体の活用・ウェブサイト内容改善に尽力しました。大学教学面においては、プラットフォームの確立、大学教員を招いての大学説明会の開催、その他授業の時間割やクラスコードなど諸々の準備に取り組みました。大学教員については文科省に報告した通り、令和5年春学期担当の全教員が教壇に立ち、万全の態勢で開学を迎えることができました。

### 2. 専門課程事業

#### (国際ビジネス学科、ホテルブライダル観光学科、グローバルICT学科、 国際ビジネス研究科、ICTホテル観光研究科、英語ビジネス学科、国際ICT観光学科 ビジネス日本語学科、日本語学科・日本語研究科)

#### 2.1. 英語教育の向上

本年度は、英語授業強化のためTESOL 或いは応用言語学の修士や博士号を取得した4名のネイティブ専任教師に加え、2名のネイティブ非常勤教師によるカリキュラムを編成しました。オーストラリア、アメリカ、南アフリカという異なる国の英語やその背景にある文化に接することで、学生の異文化への理解が広がりました。12レベルの英語授業を実施することにより、学生各自のレベルにあったクラスでスタートできるようにするとともに、半年ごとにレベルアップできる制度を整えていることから、学習意欲を高めています。また、学校内スピーチコンテストを2部制のレベル別にし、多くの学生に英語での発表の機会を与えるようにしました。ネイティブ講師とアポイントを取って個別に話せるコンサルテーションアワーを設けており、英語で分からないことも気軽に相談できる環境があります。コロナ禍により対面授業とオンライン授業を併用しました。今年度はオンライン授業の割合は前年度に比べ低くなり対面授業を増やすことができました。

## 2.2. 各学科の見直しと強化

### A. 国際ビジネス学科 貿易・航空ビジネスコース

主たる就職先を物流関係としていることから、業界のしくみ、会社ごとの仕事の範疇、業務内容を理解し、就職活動に生かせるよう取り組みました。フォワーダー、エアカーゴ、国際物流企業の方にお越し頂いての講話、卒業生による就職活動報告、校内会社説明会の実施、川崎港コンテナターミナル見学、羽田空港航空貨物地区見学などを実施しました。

JAF A に加盟しての IATA ディプロマ試験実施も 2 年目となり、オンラインでの実施に関する体制を整えることで、学生への負担を減らし、Distinction での合格者を増やしました。IATA ディプロマ危険物コースのオンライン試験は初めての取り組みでしたが、無事に実施することができました。

予想された通り、コンテナ不足やコロナによる労働力不足から、海運業界は打撃を受け船舶運賃の高騰があり、輸送が航空貨物に流れ込みました。学生達の中にも IATA の勉強を通してエアカーゴに興味を持つものが増え、この業界への就職数が増加しました。

貿易シミュレーション授業は、円安の影響があったものの、新しい講師により円滑に進めることができました。

### 国際ビジネス学科 英語コミュニケーションコース

卒業生については、例年同様に 2 年間で TOEIC のスコアを大幅に伸ばした学生が多数おりました。コースの特性上将来の希望が曖昧な学生が多い傾向にありますが、授業内で自己分析や企業研究を行う時間を多く取り、こまめな面談を通して企業の採用活動開始前から方向性を定めさせるよう指導してまいりました。コロナの影響も薄れてきてサービス業界の求人は増えてきました。早期から活動し、外資系の高級ホテルから内定を勝ち取った学生もおりました。その他ホテルや部品メーカー、不動産等多岐に渡る業界へ卒業生を送り出す事ができました。

### B. グローバル ICT 学科

卒業生については、就職が堅調で IT 業界のみならず IT を利活用する企業への就職も含めて堅調でした。また、在学中に留学へ行く学生も半年に 2 名程度ずつですが堅調に推移しました。また、「専門留学・大学編入コース」の 3 名を第 1 志望の大学へ編入させることができました。過去、最大数の卒業生を送り出す中で、留学生も含め希望通りの就職先を確保させることができました。

副担任をおいたこともあり、学生の満足度も高まりました。広報的には「学科公式 YouTube」を開設するとともに学生自身に日常の動画を撮影させるなどして、次年度以降も学科の魅力を動画コンテンツで発信してまいります。

### C. ホテルブライダル観光学科

当学科は入学時に就職分野が曖昧な学生が多いため、3 分野を満遍なく学習し適性を見極められるようカリキュラムを作成、実行しました。ホテル分野は、コロナ禍で縮小していたインターンシップや現場見学を再開しました。特にインターンシップでは、実習先を拡充することからはじめ、結果リゾートホテルやビジネスホテルの実習に複数人が参加しました。ブライダル分野は、模擬ブライダルに 1 年生も参加し、日々の授業内容のアウトプットの機会を設けました。また観光分野は、「旅程管理

主任者」のバス研修を数年ぶりに実施しました。山梨でのバス研修は学生からも好評でした。求人数はコロナ前に戻りつつあり、分野に関わらず就職活動はおおむね好調であり、複数社内定した学生もおりました。今後も実習を多く取り入れたカリキュラムと就職実現のためのキャリアサポートを考えてまいります。

#### D. 英語ビジネス学科

夜間課程クラスは、家庭環境、経済状況、本人の持病等々、さまざまな事情を抱える学生の割合が高く、2022年度も特別な配慮が必要な学生が入学しました。対面やメールを通して丁寧な個別対応を積み重ね、学校として一定の信頼を得ることができていると捉えています。同時に学力の非常に高い社会人が入学するのも当学科の傾向で、個々の状況、学力、ニーズを正確に把握することが必要ですので、今後もきめ細かなサポートを心がけてまいります。

#### E. 国際ビジネス研究科

貿易ビジネスコースでは、帰国しての就職を考えている留学生、日本での就職を叶えたいと考えている留学生、希望する職種での内定を得られなかったため入学する学生などが勉強しています。一方英語資格コースでは、大学入学のために英語力をつけたいと考えて入学する学生が多く、それぞれの目的に合わせたカリキュラムを提供することにより、短期間で目的を達成し卒業を迎えることができました。春入学だけでなく、秋入学も受け入れているところから、学習の積み上げが出来るよう工夫をしています。

#### F. 国際 ICT 観光学科

就職においては、IT企業とビジネスホテルへの就職が実現いたしました。また、インターンシップを活用し、就職を決めた学生もおりました。就職に向けて、資格取得を目指す学生が増え、IT資格やマナー資格の受験者が増えました。観光に軸を置く学生も、ITスキルを持っているため、就職の際の強みになりました。今後も4年課程の強みを活かし、幅広い就職の選択肢を示しながら、早期からの就職活動サポートに力を入れていきたいです。

#### G. ビジネス日本語学科

今年度も対面授業を基本とし、学生の感染状況に応じて一部でハイブリッド授業を行いました。授業では、ビジネス対応を含めた日本語力および専門的知識の定着と更なる向上を目指しました。また、JLPT（日本語能力試験）、BJT（ビジネス日本語能力テスト）、ビジネス能力検定、ビジネス文書検定、秘書検定、日商簿記など資格取得に向けて学習を積み重ねました。

2年生は学修の集大成として、ハイブリッド形式による卒業制作発表会を3月に行いました。発表会以前に個別の学修内容の発表練習を学期ごとに実施しており、発表会にもスムーズに取り組むことができました。来賓の企業様には対面またはオンライン形式でご出席いただき、評価をいただくことができました。

なお1年生も翌年の卒業制作発表会に備えてスピーチやプレゼンテーションに力を入れ、グループによる企業研究発表をクラス内で実施しました。

## H. 日本語学科・日本語研究科

### ・上級

メインテキスト『日本文化を読む 上級』の各単元に即した会話を多く取り入れ、学習した表現や語彙を積極的に使うように促しました。その結果、既習の内容がより定着しやすくなりました。また、学生にとって身近な時事問題を取り上げ、意見交換をしました。それにより、世の中で現在起きていることを把握、理解しつつ、グループでの意見をまとめて発表する力をつけました。

### ・中上級

新出語彙を少しでも多く覚え、それらの運用力をつけることを目指しました。そのために、授業で使う教材になるべく多くを取り入れ、学生が何度も目にするようにし、定着を図りました。また、自宅での語彙学習などの予習を促しました。そうすることで、自宅学習の習慣がついた学生が増え、授業中に語彙の意味を調べる作業が減り、日本語で理解することに集中できるようになりました。

### ・中級

初級と同じシリーズ（『みんなの日本語』シリーズ）の教科書を導入してから丸2年が経過しました。新教科書の導入後は、授業の振り返りと見直しを継続的に行ってきましたが、今年度も引き続き授業の進め方や時間配分の見直しを行い、学生にとって理解しやすい方向に改善しました。また、単に日本語を覚えるだけでなく、自分の意見を発信できる語学力を身に付けるため、スピーチやプレゼンテーションの練習にも力を入れました。さらに学校で作成している漢字学習等の副教材も使いやすさとわかりやすさの点で見直しました。

### ・初級

コロナ禍で減少した留学生が徐々に戻り、初級の学生が多くなりました。国によってはコロナの影響のため来日できたタイミングに差があり、来日が遅れた学生については補講を実施したり、所属クラスを変更したりと、学生の事情に応じた学習環境を整えました。

また、学生の国籍と学習目的が以前より多様化してきています。そこで、従来通り『みんなの日本語 初級』の文法と文字語彙の確実な定着を目指す一方、留学生ではない学習者（会社勤務の方やその家族として日本に滞在している方など）にも個々の事情に細やかに対応し、満足度が上がるよう意識しました。留学生でない学習者は、本校での学習期間が一旦途切れた後に再度復学してくれる方もおり、学校周辺地域に住む外国籍の方へのサポートにもなっています。

なお様々な学生が集まることで、学習意欲を盛り立てて日本語でコミュニケーションしたくなるようなクラス作りに今後も取り組んでいきます。

### 2.3. 留学事業

昨年同様、留学ジャーナルとEF Education Firstとの提携をしております。海外でのコロナによる隔離政策などがなくなり以前より留学しやすくなりました。2022年度は学校が休みの期間を利用した留学がありました。常勤する留学コーディネーターが、留学について気軽に相談できる環境を整えています。語学留学の単位認定のために定期的なレポート提出に加え、留学後にレポートを提出させることで留学の様子が分かるようにしています。

### 2.4. 定通教育推薦制度

前年度に続き、神奈川県高等学校定通教育振興会に加盟している学校を卒業見込みの学生で、出願時の評定平均が3.0以上かつ欠席日数が30日以内の者に、入学金半額と10単位分の減免という特別減免制度を適用しました。今年度は6名の学生が利用しました。中には一度進学をあきらめたと高校現場より報告を受けた学生もおりましたが、この制度があったためやはり進学の夢を叶えたいと締め切り間際に出願してきた学生もあり、この制度の重要性を再認識していただきました。

### 2.5. 就職への取組み

2022年度は感染症対策の緩和に伴い、ホテル業界の動きが早期より活発となり、サービス系職種を目指す学生は3月末より順調に内定を得ることが出来ました。国際物流・フォワーダーも従来のつながりを更に強化し、また空港関係も航空貨物を中心に早い時期から学生が着実な就職活動で成果を出しました。

ここ数年のオンラインによる説明会や面接への対策も充実させ、模擬面接もオンラインで実施し、オープンES対策などにも力を注ぎました。学生もオンラインでの就職活動で経済的にも精神的にも負担が減ったようで、積極的に活動する学生が多く見受けられました。

更に就職支援エージェントを活用する学生も増え、学生からの報告に頼るのではなくエージェントと積極的にコンタクトを取っていく必要も出てきています。

残念ながら期待したほど航空業界・空港サービスへの就職が伸びませんでした。比較的簡単に内定がもらえることが多く、目標に対して強い意志を持たないとすぐに結果が出る方向に流れてしまう点が課題となりました。

ビジネス日本語学科では、1年次の前期には在籍期間の2年間を見据えた進路指導を、後期には企業（グローバル人財事業企業）訪問、履歴書作成など、これまでとは異なる実践的かつ個々に応じた就職指導を行いました。また2年次では、「かながわ国際ファンクラブ」に就職支援のための学内講座（1回目「会社説明会への参加準備」、2回目「在留資格」）を実施していただき、就職活動に役立てることができました。今年度は対面での合同会社説明会が早くから開催されるなど、従来のコロナ禍の環境とは異なる就職の動きが見られ、学生は早い段階から就職活動に取り組み、結果につなげることができました。

## 2.6. 主な就職先

### (1) 貿易、空港関連

株式会社 ANA Cargo、株式会社 JAL カーゴサービス、セイノースーパーエクスプレス株式会社、株式会社アルプス物流、株式会社近鉄コスモス、コウノイケ・エアポートサービス株式会社、第一港運株式会社、株式会社ペガサスグローバルエクスプレス、鈴与通関株式会社、株式会社日本トラフィックサービス、NAX Japan 株式会社、株式会社三協、インターナショナルエクスプレス株式会社、トナミ国際物流株式会社、ノットグローバルホールディングス株式会社、株式会社関通、株式会社 A. I. F.、Maersk Service &Logistics Japan K.K.、神奈川大学 経営学部編入 他

### (2) B.ホテル、観光関連

ブルガリホテル東京、ANA インターコンチネンタル東京、プリンスホテル、ヒルトン小田原リゾート & スパ、ルネッサンスリゾートオキナワ、リゾートトラスト株式会社、株式会社ローズホテルズ・インターナショナル、東京バス株式会社 他

### (3) C.IT 関連

株式会社クリエイティブキャスト、キャル株式会社、株式会社フロンティアポート、KCCS キャリアテック株式会社、株式会社シースリーフィルム、株式会社日本ソフトウェアクリエイティブ、駒澤大学 GMS 学部編入、独協大学外国語学部編入 他

### (4) ビジネス日本語学科

監査法人アヴァンティア、株式会社アークインターナショナル（貿易）、株式会社ゴゴジャン（IT）、エクセト株式会社（IT）、スカイテック株式会社（IT）、ブルーセラドン株式会社（飲食）、有限会社山の茶屋（旅館） 他

## 2.7. 主なスピーチコンテスト実績

### ① 全国専門学校英語スピーチコンテスト

2022 年度第 40 回全国専門学校スピーチコンテストは、残念ながら入賞を逃しました。最初に参加予定だった学生が途中で辞退することとなり、今回参加した学生の準備時間が十分に取れなかったことが最大の原因です。参加学生は表現力が非常に豊かでしたが、このコンテストはむしろ話の内容が評価されるため、受賞には及びませんでした。この反省を 2023 年度に活かし入賞を目指します。

### ② 神奈川県専修学校各種学校協会主催 外国人留学生による日本語スピーチコンテスト

2 名が出場し、下記の通り 2 名ともに受賞しました。

・横浜市長賞（最優秀賞） 受賞

（日本語学科 ロシア人留学生 Zhigacheva Svetlana さん）

・神奈川県専修学校各種学校協会会長賞 受賞

（国際ビジネス学科 貿易・航空ビジネスコース 台湾人留学生 梁家齊さん）

### ③ 川崎市国際交流協会主催 外国人市民による日本語スピーチコンテスト

1名が出場し、下記の通り受賞しました。

- ・最優秀賞 受賞 (日本語学科 台湾人留学生 張沛慈さん)

### ④ 全国専門学校日本語教育協会主催 日本語弁論大会

1名が出場し、下記の通り受賞しました。

- ・優秀賞 受賞 (日本語研究科 タイ人留学生 Pramualsub Busaya さん)

## 2.8. 仕事のまなび場

神奈川県専門学校各種学校協会と県内高校との連携で例年夏に行っています。

2022年度は8月8日と9日、新型コロナウイルスにも注意を払いながら実施しました。当日を目前にキャンセルも発生しましたが、感染拡大対策を万全に行い、参加した高校生の満足度は高いものでした。参加者数及び参加校は以下の通りです。

英語：14名（申込18名） ホテル：15名（申込18名） IT：14名（申込15名）

（参加校）

星槎高等学校、日本女子大学附属高等学校、県立伊勢原高等学校、県立金沢総合高等学校、県立平塚湘風高等学校、県立深沢高等学校、県立神奈川総合産業高等学校、県立金沢総合高等学校、県立釜利谷高等学校、県立座間総合高等学校、県立高浜高等学校

## 2.9. 広報・営業

### A. 広報物

パンフレット 13,000部、募集要項 6,500部を作成。

その他、ジャーナル、オープンキャンパス案内を時期に合わせて更新、学校訪問についても各学校に合わせ、高校出身者を入れたポスターを作成するなどの工夫をしました。

資料請求者は年間 370名と前年度を上回った。留学生からの請求がまだ戻っていない状態を鑑みると実質的には 10%近い伸びと考えると良いと考えています。ここ数年、力を入れている校内ガイダンスでの積極的な広報がこの数字につながってきています。

高校生マーケットでは紙媒体での広報に翳りが見え、高校現場からの文字が多いものは読まない等の指摘を受け、ビジュアルを生かし分かりやすい広報物作成に若いスタッフが努力しています。

## B. 広報活動

- a. 学校訪問は情勢を見つつ行い、数にすると昨年度比2倍以上の訪問をいたしました。高校側で進学先の情報が欠乏していた事もあり、訪問できた学校の先生方については反応が良く、当校留学生との授業内国際交流に繋がったケースもありました。
- b. 他校に先駆けて早期からオンラインでの説明会・個別相談を導入しました。新型コロナウイルスの影響もあり入学希望者からのニーズが高く、十一回の説明会実施で計19名が参加しました。これにより、入学希望者に対するダイレクトな広報活動を絶やさず行うことができました。
- c. 静岡県伊豆及び沼津地域への広報活動が浸透して、入学者に繋がりました。
- d. 大学編入についての広報を強化することで、大学志向の学生に興味を持っていただき志願者増に繋げることができました。
- e. 学び直しなど政府方針を踏まえた広報をしたことで、社会人層の入学者を増やすことが出来ました。
- f. 修学支援の新制度について早期から研究を重ね、高校の先生方や高校生に適切な案内をしたことで、経済的な理由で進学を躊躇っていた学生の後押しに繋がりました。

## C. 校内相談会・会場相談会・出張

月	校内	会場	学校訪問 訪問数/地域
4	5	2	静岡 15校
5	16	0	神奈川 58校、群馬 5校
6	7	1	神奈川 33校
7	12	2	神奈川 51校
8	1	0	神奈川 5校
9	1	2	神奈川 53校、千葉 15校、静岡 7校
10	3	0	神奈川 126校、東京 96校、静岡 26校
11	7	2	神奈川 9校、東京 56校、茨城 27校、山梨 16校、長野 25校、秋田 15校、青森 17校
12	16	3	神奈川 1校、東京 59校、千葉 10校、山梨 10校、青森 15校、沖縄 31校
1	7	0	神奈川 44校、東京 9校、千葉 14校、静岡 1校
2	3	1	神奈川 64校、東京 23校、静岡 16校
3	15	0	神奈川 65校、東京 8校、千葉 10校

## D. その他イベント型相談会

進路相談会 4月19日(火)/7月20日(水)



## E. 留学生の募集（ビジネス日本語学科、日本語学科・日本語研究科）

- 令和4年3月1日より外国人の新規入国制限が緩和され、留学生の日本入国が可能となりました。  
（日本全体の留学生新規入国者数 15人（令和4年1月）→89人（2月）→14,810人（3月）→46,889人（4月））。しかしながら、令和4年8月まではコロナの影響により日本から海外への出張による募集活動ができず、海外からの留学生の募集活動としてオンライン説明会を頻繁に実施しました。
- 令和4年9月からは海外出張を再開し、令和5年3月までに7回実施しました。訪問先は台湾、タイ、ベトナム、インドネシア、韓国、香港、フィリピンです。訪問時には、現地の日本留学エージェントと直接会話して募集を行い、さらに現地で日本留学説明会を実施することで留学希望者にも学校案内を直接行うなど、留学希望者からの質問にその場で回答することができました。オンラインとは違い、対面での対応ができたことは非常に有意義な機会でした。
- ビジネス日本語学科の国内募集は、全国の300校以上の日本語教育機関に本校の資料を発送すると共に、神奈川県及び東京都の日本語教育機関を訪問して、説明を実施しました。また、本校に来校できる入学希望者に対しては、来校時に担当教員から授業内容等の詳細を直接説明しました。
- 学生の日本企業への就職希望が従来よりも増加しているため、学校内での就職セミナーなどを強化していることをアピールして学生募集につなげています。
- なお、令和4年度、日本語学科・日本語研究科・ビジネス日本語学科には21の国と地域の留学生が在籍していました。

## 3. キャリアアップ部事業（附帯事業）

### 3.1. 失業者向け再就職支援

#### A 専門人材育成コースの実施

神奈川県立東部総合職業技術校二俣川支所より委託を受け、正社員就職を希望する非正規雇用労働者等を対象とした長期訓練『専門人材育成コース』を実施しております。

#### ■令和3年度4月生（令和3年4月～令和5年3月修了）

国際ビジネス学科 貿易・航空ビジネスコース	修了6名および 就職退校3名	グローバルICT学科	修了4名および 就職退校5名
ホテルブライダル観光学科	修了1名		

#### ■令和4年度4月生（令和4年4月～令和5年3月修了見込）

国際ビジネス学科 貿易・航空ビジネスコース	在籍10名	グローバルICT学科	在籍12名
ホテルブライダル観光学科	在籍3名および 傷病退校1名		

## B 夜間短期訓練の実施

神奈川県立東部総合職業技術校二俣川支所より、新型コロナウイルス感染症の影響による休業者、勤務シフトが減少した方など不安定な就労状態にある方等の求職者のうち、訓練期間や訓練時間に配慮が必要な方を対象としたモデル事業としての依頼・委託を受け、夜間時間帯に1日3時間程度・1カ月間の短期訓練を実施しました。

PC スキル基礎科	修了5名および 傷病退校1名
-----------	-------------------

### 3.2. キャリアアップ講座

昨年に続き、ウェブサイトのブラッシュアップを図りました。

- ・時間帯、曜日ごとに講座を検索できる
- ・受講料割引制度を見ることができる
- ・講座パンフレットをPDFでダウンロードできる
- ・オンライン上で講座申込ができる
- ・昼間部の講座の一部をキャリアカレッジ向けに新規公開

上記に加えて、classroomサービスの提供や自習室の確保を行い、快適な学習環境を整備しました。その結果、一般教育訓練給付金の利用や長期の講座受講につながりました。

### 3.3. 貸教室

既存顧客（毎週土曜日に利用されている団体）の利用時間及び利用教室が昨年度よりも増加しました。また新規顧客（定時制・通信高校）で夏・冬・春休みの一定期間まとめてご利用いただいております。その顧客に対して専門学校及び大学の資料をご案内しました。なお、次年度は説明会を計画したいと考えています。また半年に1～2回ほど平日の終日会議等にご利用いただくことはあるものの継続的な利用の見込みがないため、地域のイベントやセミナーを当校の施設で利用可能かアクションを起こしていきたいです。